

吹寄亡
No. 1
2002-2003
入選俳句集

心太監
5959
0400



Rico



前書き



2002.08.16

吹寄せはこんな宣言で始まった。

<http://fukiyose.etowns.org/fukiyose.html>

俳句でなにかまとめようとすると、季題を中心に添えた、いわゆる歳時記のようなタイプになりやすい。

子規がやりかけていた物や事象で分類する試みは、その壮大さゆえに跡をたどるものがなかった。強いていえば夏石番矢が試みたぐらいか。

一年続いた「花寄せ」は花ゆえに季節をもつていた。

そういった「花鳥風月」の伝統から離れると乾いたものが見えてくるだろう。

それが現代をえぐれるか、日常に埋もれてしまふかはわからないが、試みに値する。

既存のものを集めるのは大変だが作りだすのは比較的簡単だ。

ここで始めればいい。

「花寄せ」のあとの「吹寄せ」ぐらいでいいか「季寄せ」にあらずということだ。

笹心太

毎週2句づつの兼題を掲げた。それに多くの方が応えてくれた。

1年50回で投稿者は述べ1000人以上、投稿句は2000句以上、を数えた。

小学生から80歳を超えるご婦人。俳句を初めての方から何十年のベテランと投稿者の年代も広い。これも「吹寄せ」といえる。

詩形に制限はもうけなかった。「定型俳句、自由律俳句、川柳、一行詩」。

短詩系全般、あるいは俳諧といってもいい。そういう意味でも「吹寄せ」であった。

毎週 笹心太の目で 入選句、数句を選び、それに笹心太の句を添えた。

短詩系(俳諧)の発展に、いささかでも寄与できればと、この1年間の成果を御報告します。

2003.08.21

笹心太

*** 目次 ***

前書き

第一回吹寄せ大賞

第一回吹寄せ新人賞

兼題 一、二十五入選句

吹寄せベスト3（前期・後期）

吹寄せ評論家賞

兼題 二十六、五十 入選句

後書き

補記

添削事例

自由律俳句とは

俳句と川柳

時雨の系譜



第一回吹寄せ大賞



吹寄せ大賞 のぶえ

今年度吹寄せで一番活躍された方
選考委員4名のうち3名の推挙による。

のぶえさん 晶

途中からの参加ですが、入選句数は二十七句で最高、句はバラエティに富み常に底に人間に対するユーモアが感じられます。

最初のころの「ポリープの診断靴紐締めて待つ」に見られる人間に対する観察の鋭さはそのまま近作の「覚む自分しばらく探す肘枕」にまでつながり、また同じく「降参のバンザイで着る丸首シャツ」には暖かなまなざしが「ベランダは満員シャツと薔薇と百合」にはみずみずしい感性が感じられます。名実ともに吹き寄せの顔として大賞にふさわしいと思います

のぶえ 兎角

俳人の到達すべき道筋に柔らかに明りを灯してくれている。

蛍 暁兵

吹き寄せは少々ネガティブな暗い感じの句が多いように思います。

その中であって真つ直ぐな視線を感じさせる蛍さんの句が目立ちます。

互選前半から3句でも人気があります。

入選回数だとのぶえさんが多いですが、批評不参加は大賞資格なし。

入選回数次点のユズヒコさんは新人賞でしょうから、ダブらないほうが良いと思います。

のぶえ 心太

投稿句の質が高く、安定している。定型俳句で培われてきた力量が無季の兼題に出会い、無季定型、自由律にも進境を示した。

まさに吹寄せのMVPといふべき。

◆ 受賞のコメント ◆

吹き寄せ一周年おめでとうございます。

遅ればせに参加させていただきながら名誉ある
大賞を戴きまして何と申し上げてよいやらわかり
ません。

そろそろ覚つかぬ句も多くなったような気もし
ますし高齢への御厚情とも思えますが、私の一生
を飾る喜びとして拝受させて戴きたいと存じます。

心太先生はじめ皆様有難うございました。

◆ 自選3句 ◆

糊浴衣で突っぱつてゐる夫坊や
降参のバンザイで着る丸首シャツ
青き踏む浮雲まねくところまで

のぶえ



第一回吹寄せ新人賞



吹寄せ新人賞 ユズヒコ
選考委員 全員一致

新人賞は その年に活躍された新しい個性で
すが、今年度は皆さんそれに該当してしまいますの
で、今年度俳句に初めて接した方、20代以下の
方から選考いたします。

◆該当する方

20代以下 猫、ユズヒコ、皐、純司、タラコ、
芽々子

◆初めて接した方

裕、リクジー、若葉、向日葵、参、どれみ、ドット、
ソーヨン、しく、三島

（初めて接した方はおおよその伝聞）

ユズヒコ 晶

新人賞対象の中では投句数、入選句数とも最高、これからの活躍を期待します。

すでに自分の句の形を持っているようですが、多くの作品に触れることによってさらに新しいユズヒコさんの句の形が現れてくることを期待します。

ユズヒコ 兎角

物の本質を見つめようとする目と、それを俳句の形に残す力量とを併せ持っている。

ユズヒコ 暁兵

新人賞資格のある人がユズヒコ、皐、猫の三氏とすれば、質量ともに文句なしにユズヒコさんです。（他にもいらしたんですね。が、私の新人賞の推薦はユズヒコさんで動きません。）

ユズヒコ 心太

瑞々しい感覚で、吹寄せに涼風を吹き込んでくれた。

◆ 受賞のコメント ◆

みなさん、新人賞に選んでくださいましたありがとうございます。
とうございます。

ボクの作品は、母さんの短歌や母さんとの会話がヒントになった場合が多いです
ちよつと変わったものの見方はきつと母さんに似ているんだと思います。

これから変わった俳句を作ってゆきたいです。
ありがとうございます。

◆ 自選3句 ◆

咳菌咳菌咳菌菌 待合室
ジュわあー鉄板にのつたハンバーグ
傷に飾る

和歌が心の結晶ならば、俳句は感性のかけらであればよいと思います。

心が命じたことに。ピッタリの言葉のピースをつなげて。

ユズヒコ

兼題一、二十五入選句

吹寄せ
一

箱



うめき声が BLACK BOXを回収せよ 心太

箱庭療法 あなたとわたしの病名 TARA

うでぐみをして箱がころがっている 氷心

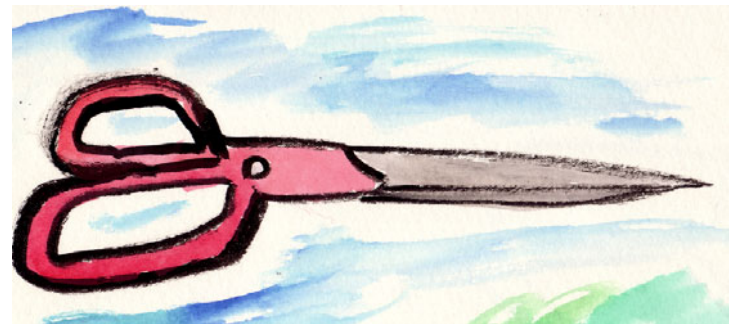
新しき男も箱で飼い馴らし 凜

箱いくつ積みば届くや秋の天 螢

ティッシュの箱クロネコヤマトの宅急便 猫

吹寄せ 二

鋏



裁ちばさみ生きることのみ思う夜

晶

桃色の握り鋏や夜なべ妻

千

射手座を切り取る鋏を下さい

心太

父の鋏は四角く切れる

響

小春日の猫と鋏の使いよう

しゅう

吹寄せ 三

糊

影が私を糊付けして スキップ

心太

十分な糊代のない家族

素人

愛つて糊のきいた浴衣

紫苑

訂正の糊張り斜め台風来

林のぶ江

ハッテはつて貼つて 失敗

ユズヒコ

早朝のパサール(市場)にて・

糊のやふな粥

バナナの葉に包んでくれたよ

オジヤラ



吹寄せ 四

紙



ただの紙くずなんですよ

ほら燃えるでしょう

心太

昼寝覚め己と紙の水分率

暁兵

再生紙故郷の話聞かせてよ

螢

全員の型紙破り捨てたる日

のぶえ

ティッシュ捨てる 日常に還る合図

凜

折り紙は山と谷との繰り返し

ユズヒコ

吹寄せ 五

靴



全身シャネルだ靴擦れなんのその

殷蘭

履き潰した靴 まだ俺は

心太

出かけはいつも一緒だったねコンバース もつお

秋日まぶし いつもの靴履き旅に出る 咲

ハイヒール男と同じ目の高さ 凜

死者の靴 歩き回る 龍

吹寄せ 六

靴下



ソックス脱ぐ五人家族 解放

ユズヒコ

ルーズソックスが並ぶ 純白のルーズさ

咲

ホントはストッキングなんか

きらいだよねモンロー

夜

靴下の 色も褪せたる 彼岸すぎ

南十字星

靴下の穴にさへ くすぐられてゐる

オジャラ

もう共犯ね レースのストッキング

心太

吹寄せ 七

ズボン



ジーンズの似合う嫁のサイズアップ

映

CALVIN KLEIN JEANS 27

小股切れ上がってます

TARA

はらきつくしりゆるいズボンとなる

不自由

チャップリンのズボン 秋深し

螢

脚の線きわめてサブリーナ

響

ズボンを穿く 半端に生きてきた

心太

雨のグラデーション 交差点のズボン

晶

吹寄せ 八

スカート



スカートの中の欲情 空蒼し

咲

マネキンのスカートに打つ隠しピン

のぶえ

脚といっしょに投げ出す自分 赤いミニスカ

凜

午前8時20分 ひだスカートの疾走

晶

タイトスカート勝負する

お嬢

電車が通り過ぎる

水玉模様のスカートが揺れる

心太

スカートにジャージ 埴輪も笑う

皐

吹寄せ 九

シャツ



シャツは洗濯機

僕は風呂

ユズヒコ

その程度の主張？ボタンみつつ外している

響

白衣から駱駝がのぞく老名医

裕

参のバンザイで着る丸首シャツ

のぶえ

花のブラウスが腕まくりしている

夜

切符切るリズム軽やか縞のシャツ

蛍

ブラウスふわり 陽だまりゆらり

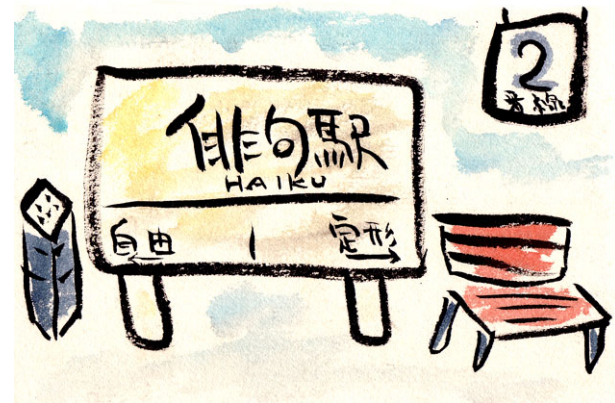
南十字星

ブラウスの上からまきぐる 木もれ陽

心太

吹寄せ 十

駅



遠出してなぜか立ち寄る道の駅

柚父

秋灯の影引く男単線駅

のぶえ

駅前のファミレス ママたちの無駄話

夕

マニキュアの乾きを待てず冬の駅

TARA

ページをめくるまためくる

駅舎のほの暗さである

氷心

鳩と一緒に握り飯 駅の朝焼け

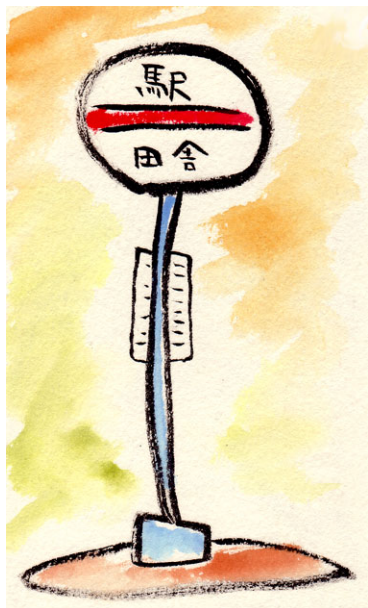
兎角

ほがらかな魚とすれ違う 駅

心太

吹寄せ 十一

停留所



待ちに待つ視野を溢れてバス止まる

のぶえ

雪近しささら電車が停車場に

裕

オーバーコートのかコーヒー

未だ温かい バス・ストップ

御父

バリ島にあるベモと呼ばれるバス・

手を上げれば、そこがバス停

オジャラ

停留所ひとつを歩く秋うらら

螢

するすると闇深まるや停留所

弥生

母を待っていた 停留所

心太

吹寄せ 十二

公園



コースター一人で乗つてよ僕見てる

裕

みんな花コスモス園のかくれんぼ

のぶえ

私は犬なのだ 公園内立ち入り禁止

殷蘭

雪解けて花時計の針るんるんるん

蛍

親殺し子殺し 遊園地は失敗した魔法

晶

爺婆湧き出る 朝の公園

心太

吹寄せ 十三

病院



咳菌咳菌咳菌菌 待合室

ユズヒコ

病院で死を待つ友あり蟹解禁

弥生

院内時計アタシの刻みはどうしてくれる

御父

石榴が割れて 退院

暁兵

どこも悪くないんですか？薬出るんですか！

響

ひととき病人になる病院

氷心

酸素吸入器をはずせ 午前0時

心太

役所



生きている証の軽さ役所出ず

のぶえ

サンダル引き摺り方身につけて定年

響

役所が一番立派なところ

お嬢

あまらすな予算は全部使い切れ

素

私だけになった戸籍謄本 請求す

心太

戸籍課の茶髪がひよいつまんだ私

晶

レニー・クラビッツ似

おお国民年金課の人よ

殷蘭

吹寄せ 十五

図書館



いばっている新刊本

ユズヒコ

図書館に返すべき本石路の花

のぶえ

司書の挫折 長すぎたブルースト

殷蘭

図書館の秋の日だまり 中也詩集

螢

筋肉鍛え 図書館の大漢和辞典

夕

大漢和めくる重さか冬の雷

弥生

小春日の図書館 主人公死す

夜

1975年11月の縮刷判を見たいんです

朝日と毎日と読売と

心太

吹寄せ十六

美術館



このオムレツ最高紅葉の美術館

のぶえ

影と二人で観るクリムト

凜

ご存知ですか出口の無い美術館

暁兵

隸行草上野の杜で君に訊く

裕

クリックすれば広がる、私の美術館

オジャラ

窯変天目 ガラス越しの愛撫

晶

不機嫌な等身大が 北の湖記念館

殷蘭

自動小銃で守られている リベラの壁画 心太

吹寄せ 十七

コンビニ



肉まん コンビニから来る冬

ユズヒコ

親父他界 ちょっとコンビニへ

暁兵

ナニワではアンパンと呼ぶAMPM

裕

故国とはコンビニの握り飯

110円に消費税也

夕

角角にコンビニ三軒雪晴るる

のぶえ

コンビニの弁当着くや逢魔時

心太

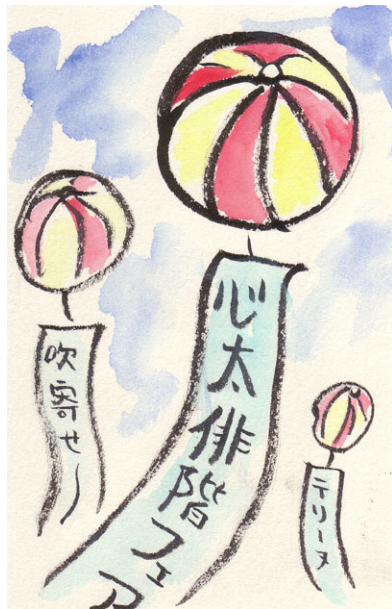
24時間じゃないんです

ファミマ南小学校前店

皐

吹寄せ 十八

スーパードパート



お返しを薔薇で包んで一区切り

響

お向かひのデパートでした忘れ杖

のぶえ

顔写真添えて売られる大トマト

蛭

デパ地下一周 メニュー完結

南十字星

大丸6階直行

ユズヒコ

西口に東武東口に西武 時雨れて泥靴 晶

あの子のいるところに並ぶ スーパーのレジ 心太

吹寄せ 十九

酒場



居酒屋の空気に酒の分子飛ぶ

ユズヒコ

酒場のママの遠近両用眼鏡

暁兵

酔ったふりしてただけよ酒場のあはは

咲

幼稚園のママたちで飲む ジャラ銭こまかく

夕

キタ新地ラーメン食べて締めにする

裕

込み入った話があったのだが 烏森のおでん屋

晶

居酒屋へお別れ言いに行く栄転

螢

昔話はぬる爛で聞く

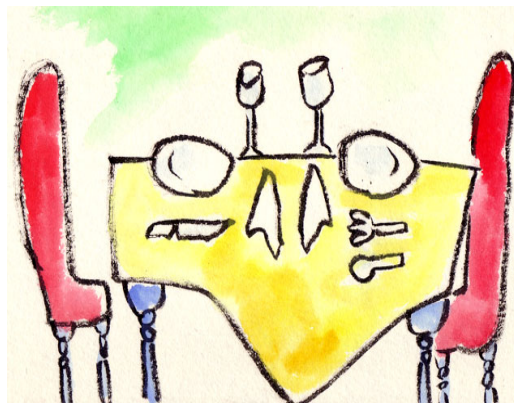
心太

飯盒回せ 星の酔いたる峰酒場

兎角

吹寄せ 二十

レストラン



原爆忌30階のレストラン

暁兵

転校祝いだ 息子と駅のラーメン

タ

ジュわあー 鉄板に乗ったハンバーグ

ユズヒコ

レストランウクライナ 待つ事100分

来たぞボルシチ

リクジイ

フレンチレストランの午後主婦吹き溜まる

咲

ボルシチ50円也 たいめいけんの宝

夜

鷗に追われて入るみなとや食堂

心太

やさしさソースのしあわせ

もう致死量です

久光良一

ワルンにて・

ガブリ、コシヨウとトウガラシの味、青空。 オジヤラ

吹寄せ 二十一

劇場



掛け声の間合すつきり見得決まる のぶえ

照明を集めて 今宵も切腹 暁兵

寅さんを映画館で観る我が家の正月 もつ

舞台に降る雪僕は草 ユズヒコ

観客はいない 雁来紅のなお赤い TARA

新口村の雪客席にも降る 凜

花道を先に雪野のあるごとく 晶

楽屋から赤子の泣き声

ヌードシアター・セントラル 心太

吹寄せ 二十二

鏡



自画像描く鏡の奥を雲いそぐ

のぶえ

母が映っている朝

響

鏡を見て・ 気にするなよ

ユズヒコ

還暦近し鏡裏向けあっち向け

リクジ

三面鏡に笑顔をつくってみる面接日

蛭

傷だらけのカーブミラー 宿はもうすぐ 南十字星

曇ったままでいいかもな、この鏡

一本杉

ゆがんだ鏡 絵を描いている私がいる

オジャラ

目を閉じてでも無駄だ

上下左右鏡の部屋である

心太

吹寄せ 二十三

眼鏡



百円眼鏡大きな顔で侍りけり

のぶえ

古本の値踏みしている鼻めがね

螢

眼鏡かけ乙種合格船舶免許

裕

さて老眼鏡入れて旅仕度はこれだけ

久光良一

メガネ買う フライト40分前

南十字星

眼鏡をはずす 話は終った

夜

老いの眼鏡よ ぼけるな愚痴るな

心太

吹寄せ 二十四

ピアス



双子星あの娘のピアスにいかもね

のぶえ

老婆のピアス 浚渫船

心太

傷に飾る

ユズヒコ

へそピアス 万葉集の話しよ

TARA

ピアス痕、きえる頃には次の恋

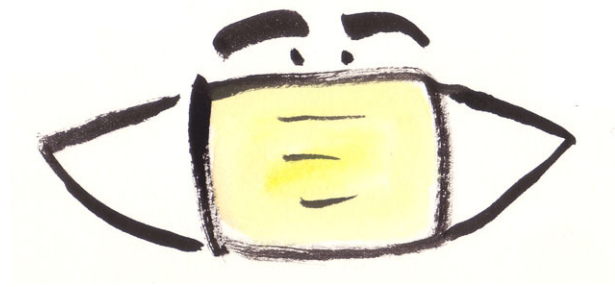
もつ

不機嫌なピアス 三杯飯

夜

吹寄せ 二十五

マスク



世渡りは マスクついたり外したり リクジー

白いマスク行き交う のっぺらぼうの春 咲

ヒーローマスク競り合っている縁日 蛍

特大マスクを 花粉症の恐竜に 心太

活性炭入りマスクで会議中 オジャラ

アイマスク 無防備な唇 夜



吹寄せベスト3(前期・後期)



◆ 前期 ベスト3 ◆

十六人の方が選考してくれた。票はだいぶ分散したが以下の3句。

蛭 七「ズボン」 4票

チャップリンのズボン 秋深し

暁兵 思いがけない組み合わせでありながら季語がピッタリ

氷心 夜のズボンに象徴される人生の味が「秋深し」で、あぶり出された。人生を見る目の確かさとユーモアを感じる。

心太 まさに「ズボン」が賦物になった。

のぶえ 十「駅」 3票

秋灯の影引く男単線駅

凜

可不可

心太 ドラマが始まります。切ないドラマが

ユズヒコ 二十四「ピアス」 3票

傷に飾る

兎角 俳句は詩であると思う。

TARA パンクな心

心太 「解」を見出そうとする求心力があります

◆ 後期 ベスト3 ◆

十八人の方が選考してくれた。こちらにも混戦したが以下の3句。

猫 三十二「島」 3票

ひょうたん島は1回降りたらもう乗れない

晶 誰でも持っている子供のころの思い出。一度離れたらもう戻れない、過ぎ去っていつて取り戻せないものいとおしさに胸を打たれました。忘れられない句です。

どれみ

心太 乗りたいけれどもう乗れないものがたくさんあるね

昭雄 三十七「雨」 3票

夕立やひとのかたちに濡れてしまう

晶 覆っていたものが濡れてみんな同じ「ひと」になつてしまった。言葉の選択によって当たり前前の光景がこんなにも思慮深い句になる。感動しました。

螢 夕立の濡れ方、「ひとのかたちに濡れる」思いがけない措辞に、ずぶ濡れで走る人間の姿が見えるような臨場感がある。

夜 突き放した視点が見事。濡れそぼる姿の滑稽さをさりげなく見せる。

夜 四十八「ベランダ」 3票

花のバルコニー 銃口を隠している

可不可

螢 意外な取り合わせ。川柳のうがちにも通じる意外性に、詩情も加わっている。

心太 そう花はカムフラージュいつでもね



評論家賞



こちらは投票者が12人と少なかった。
オジャラさんが4票 集めて受賞した。

お嬢 毎回ユニークな視点からの感想を独特
な語り口で表現されている。それを読む
のも吹き寄せの楽しみのひとつとなっています。

兎角 おおらかで自然体な評が心地良い
心太 みなさんを楽しませてくれたね
殷蘭 感想とはこういうものだと思います。

◆ 自薦のコメント3つ ◆

携帯電話 自宅に電話して 今どこ？(夕)
という句に対してつけた、
『うーむ。この句は、ボケで、レスに、突っ込みを求めている
という、新しいタイプの句ですか?』

冴えている。

カンマですか。ピリオードですか。夜空の花火（ドット）

という句に対してつけた

『しばらく距離をおこうか、別れようの、どちらなのかハッ
キリさせてということすね。』

どちらもなあ。次を探す方がいいような気が。』

今後どうするかという行動的指示まで具体的で、悩んで
いる方の心に決着をつけてあげられたかなと。

まず眼鏡はずして無言の合図かな（お嬢）

という句に対してつけた

『メガネをはずして合図するというのは、あれっすかね、
辺りを見回して、シヨベルカーかなんかで、いきなりAT
M壊したりするやつすかね。』

笑っていただけてヨカッタす。

◆ 受賞者のコメント ◆

俳句以外で賞、頂いてもなあ。
なんか、フクザツすね。ボソリ。

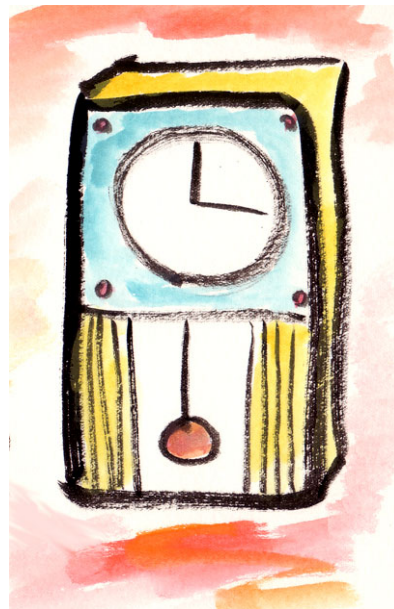
--*-*-*-*-*-*-*-*

兼題 二十六 - 五十 入選句

--*-*-*-*-*-*-*-*

吹寄せ 二十六

時計



数分遅れの時計 それでいい

咲

時計を投げ捨てた 海が膨らんだ

暁兵

砂時計いつになったら矢印に

素

時間あふれて時計店

彰岳

ジャズ低く時計に走る男の目

晶

日時計が止まってしまった

心太

吹寄せ 二十七

鞆



動くなッ リュックにオニヤンマ

暁兵

6年間の大親友だよランドセル

ユズヒコ

一際大きい鞆 盲目の

高村くんのキャンパスライフ

TARA

うふふ 鞆の中身は内緒です

お嬢

家には置いておけない 鞆に入れる

夕

もう春だよ 寅さんの鞆

夜

いつも何かを入れ忘れている

心太

無傷の鞆 震災忌

兎角

吹寄せ 二十八

カメラ



シャッター音のみの青い空

咲

予感を撮る

TARA

何かに出会えそう 一枚残しておくフィルム 蛍

切り取れば語る 路地裏 晶

うぐあ！ 殺られたらカメラ視線 皐

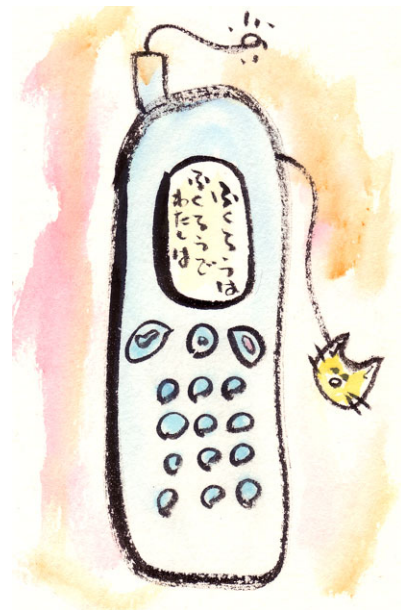
春の忌 父のカメラずしり 夜

六度目の街 手にはカメラ 南十字星

広角でも望遠でも標準でもない私の視野 心太

吹寄せ 二十九

携帯電話



携帯でお玉じゃくしの話など

のぶえ

青き踏むケイタイ電話オフにして

蛍

ポケットでぶるぶる震え君が呼ぶ

裕

ちっと見つめては 花模様の爪ピポパ

オジャラ

ほな電車きまつさかい切りまつせ

晶

持たないワケが要るの? ケイタイ

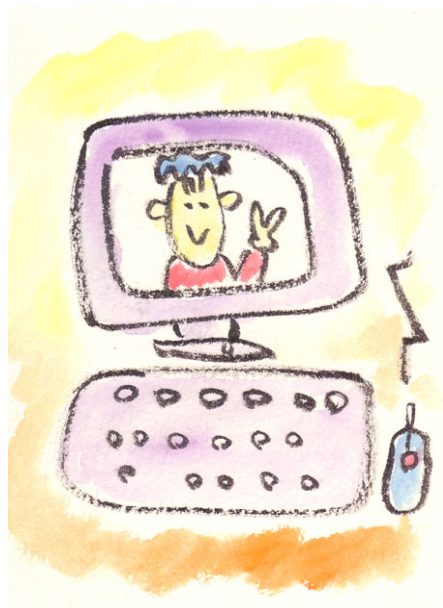
南十字星

メルトモリセツト ケイタイカエル

心太

吹寄せ 三十

パソコン



インターネット一網打尽の雀

咲

禅僧のパソコン OSはLINUX

暁兵

パソコン入院 石路の花

TARA

パソコンやマウスの逃げてしまひけり

のぶえ

パソコンはいつまでたっても反抗期

お嬢

20030320・

クリック 千夜一夜の空燃ゆる

オジャラ

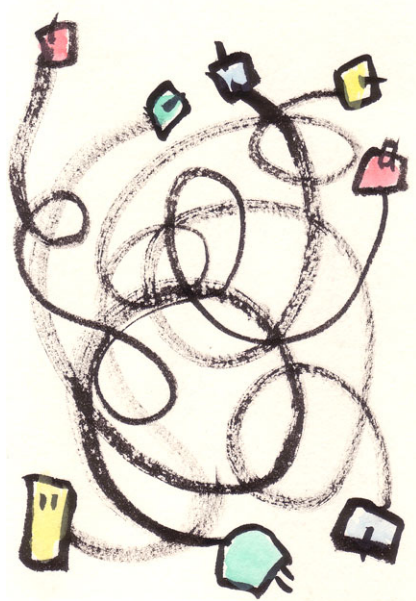
イラク侵攻と連理秘抄

春分の日のパソコン

心太

吹寄せ 三十一

ケーブル



ロープウェイ樹の這う霧のところまで

TARA

海底はやさしい、国境越える

みち

ぴんと張つて

海がつなぎとめられている

久光良一

春雨や神馬の網は茜色

晶

千人の綱引き 午後から陰る村

心太

家族ケーブル今日も混線

ユズヒコ

赤い蟻の道となり 木の上の電話線

オジャラ

横綱も輸入してるんですね

蛭子

吹寄せ 三十二

島



敷きぶとんは僕の島

ユズヒコ

離島へ就職 75歳の父の春

夕

僧侶ふたり 島に向く舳先

暁兵

桜はらはら島言葉舞い踊る

紫苑

孕んだ女が島の夕日を売っている

心太

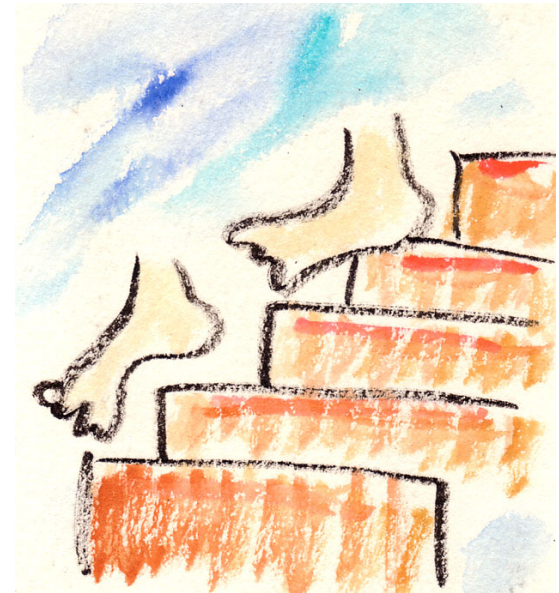
定食の札雨に濡れ島の食堂閉店

久光良一

ひょうたん島は1回降りたらもう乗れない 猫

吹寄せ 三十三

階段



外階段の余慶春月夕桜

のぶえ

ジャンケンポン一段のぼる春夕焼け

蛍

登りつめたら あっ！海

ユズヒコ

猫の仔の階段のぼる伸び縮み

みち

石の段々 夕日と猫の場所がある

夜

階段の途中 やめた

咲

石段をのぼってくる夜 海が近い

晶

階段に腰掛けている 四月

心太

吹寄せ 三十四

坂



葛切りを君と探す二年坂

裕

ここは坂として地図の街歩く

みち

坂を丸めて飲み込む

彰岳

坂道予報あなたはうさぎになりなさい

兎角

仕立物いたし枡 本郷菊坂雨ざんざん

晶

息切れ坂おはようございますが駆け下る

氷心

小天狗が駆け下りるや天下の陰

心太

吹寄せ 三十五

橋



座禅草あの八橋を渡りたし

のぶえ

ものうい音を橋がつないで

この町あの町

久光良一

陸橋の真中 飛べる気がする

凜

バリ島にて・

日本人が死んだってさ あの花

オジャラ

悪い子は拾い子という母はなく

ソーヨン

吊り橋ぐらり 水音近くなる

夜

生者か死者か 霧の橋

心太

吹寄せ 三十六

雲



青き踏む浮雲まねくところまで

のぶえ

例の雲の上で 15時に

暁兵

飛行機雲すてられない夢がある

紫苑

逆光の夏雲 増殖するDNA

TARA

雲の峰 ふるさとはそこに在る

蛍

雲を掴むような男といわれてきたね

雲一つ無い空 心太

吹寄せ 三十七

雨



蛙起きている

わたしも起きている夜の雨 久光良一

青時雨 魁夷の馬のまばたきぬ 蛭

入梅やごくあたりまえに雨が降り 淑

夕立やひとのかたち濡れてしまう 昭雄

春の雨 猫の欠伸につられている 夜

卯の花くたし 高校生は恋をする 晶

雨の匂い もうすぐ 心太

吹寄せ 三十八

箸



弁当を間違た 今日父の箸 ユズヒコ

コップの中で箸が曲がった 初夏の理科室 蛍

持ち帰る箸袋で匂が息している 彰岳

爺っちゃんが好きだった箸 持たせつぺ 素人

酔えば殴る男の骨よ拾い箸 みち

五月雨 おしゃべりな箸 夜

箸を持参す 明日はアウシユビッツ 心太

吹寄せ 三十九

椀



父母僕茶碗重なる食器棚

ユズヒコ

父さんには小さい方

子が並べる夫婦茶碗

素人

箸の櫛では漕げぬと子の目まっすぐに

みち

魚扁が挑んでくる 鮎屋の湯飲み

蛭

少し欠けた椀です。こぼれない愛ください。

亜子

飯茶碗 しあわせなんて瞬間芸

晶

細い指が似合う塗り椀 走り梅雨

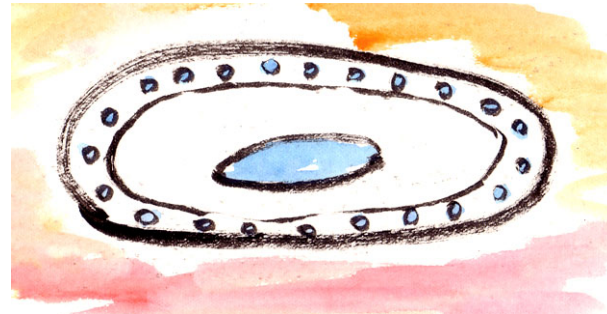
夜

はげた椀すてないでいる

心太

吹寄せ 四十

皿



地に並ぶとつ国の皿夏の月

のぶえ

皿に盛られる あり合わせという技

ユズヒコ

山積みの皿 老いの腕まくる

暁兵

焼き茄子の盛られて返る藍の皿

蛍

乾いて候 河童の恋

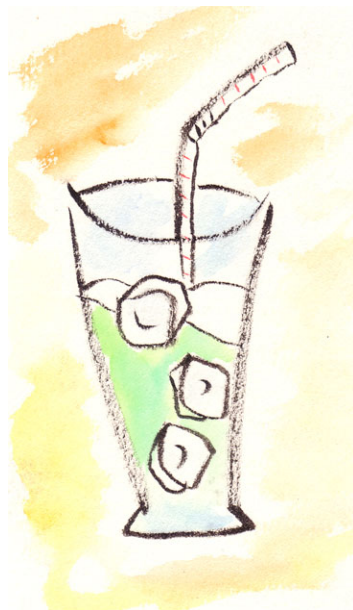
みち

万暦赤絵の皿に風呂吹き大根

心太

吹寄せ 四十一

コップ



遠き日のグラスに開く水中花

のぶえ

新芽出すコップの中の沈丁花

庄

コップ酒。パイのほうれん草のごとく

昭雄

不戦敗のコップ酒で

一日を足りている

久光良一

おるすばん コップのドレミふぁニド・レミ みち

無骨なグラス ドンキホーテの国

夜

告白すコップの形に指を曲げ

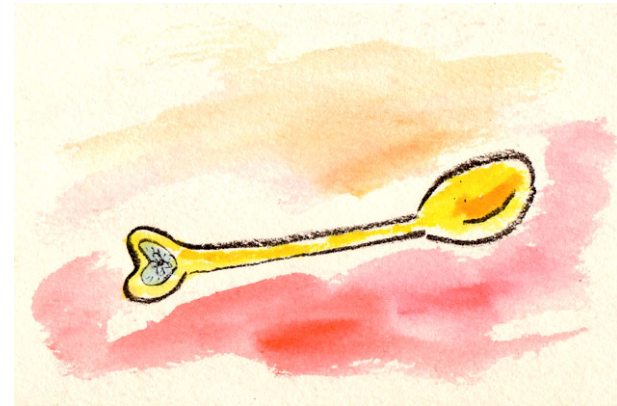
晶

放尿の音もか細き紙コップ

心太

吹寄せ 四十二

匙



匙持ちて離さない子やくわんくわんの子 のぶえ

濁った銀の匙 老婆の繰言 タ

侍魂 スプーンであーん TARA

愛憎を小匙一杯ほど所望 昭雄

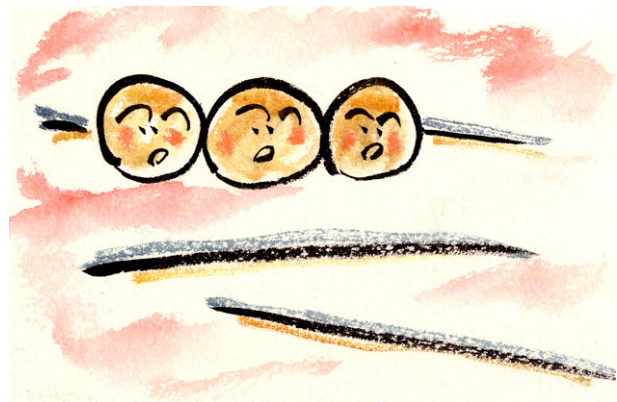
せんない別れ ちりれんげ 兎角

涼しい朝の銀の匙が苺つぶしている 久光良一

飼い馴らすための匙加減がわからぬ 心太

吹寄せ 四十三

串



父の日の父は串串子は串串串

氷心

お茶でも酔える串を積む

紫苑

串でつながれ

ジュウジュウ焼かれてきた仲だ

久光良一

血縁をフォークで押さえてバッファリン

床眠

君のマシニングントークを

串刺しにして返してあげる

心太

モズの速贄 突き刺さってるのは私

迷

串団子おにちゃんには内緒でな

晶

吹寄せ 四十四

鍋



冷ごはん踊ればチャーハンでき上がり！ ユズヒコ

窓に鍋のシルエット 坂の途中の家 ドット

見て 鍋いっぱいの水羊羹 蛭子

鍋は33cm 春はいかなご 心太

諍いし日のグツグツグツグツ みち

すりこ木で鍋を兜の子を叩き 亜

蟹鍋や汽車は餘部渡る頃 兎角

吹寄せ 四十五

台所



台所に母さんが立つ・・・いいにおい ユズヒコ

流し台 こっそり置いてる 弁当箱 ソーヨン

ジンバルのコンロに点火時分時（じぶんとき） 裕

捨て来しが何故かうれしき台所 のぶえ

夕暮れ煮詰めて厨のおいし魔法 久光良一

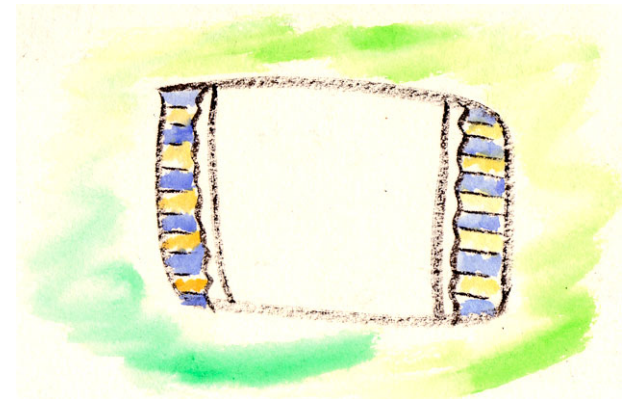
キッチン楽しく明るく ♪オーソレミヨ どれみ

キッチンの隅に座る 夏の月 夜

私一人を喰わせるのにあきた台所である 心太

吹寄せ 四十六

枕



走り根を枕に一寸宇宙まで

のぶえ

枕投げ合う大部屋 初めての旅

蛍

花魁の箱枕 暗い博物館

ドット

枕ごと男を替えた 梅雨は明けない

お嬢

同床異夢 そばがら枕と藤枕

三島

旅の枕ですぐ寝息のろくでなし

みち

道ならぬ恋の初めや膝枕

心太

炎天のビル傾いて膝枕

兎角

吹寄せ 四十七

布団



布団とプロレス熱帯夜

ユズヒコ

丸まった布団が

わたしに抱かれている朝だ

久光良一

干しあがる布団にそつと母をおく

素人

短日や盗人のごと蒲団干す

暁兵

三角公園 湿った毛布が積まれている

三島

傍らの温もりに安堵する夜明け頃

お嬢

布団干す キティーちゃんの逆上がり

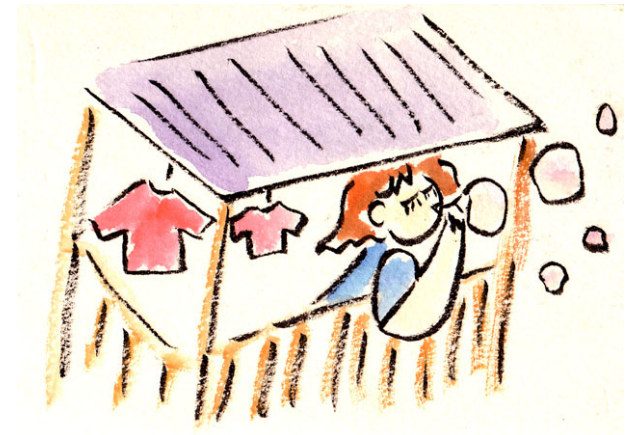
晶

海峡の風を孕んだ布団に寝ている

心太

吹寄せ 四十八

ベランダ



ベランダは満員シャツと薔薇と百合

のぶえ

縁側に西瓜と並ぶ膝小僧

裕

ベランダでシャボン玉吹く さようなら

ユズヒコ

細い首だ ベランダのアネモネ

TARA

花のバルコニー 銃口を隠している

夜

命分けて 最初のお外はベランダ

みち

縁側の特等席に猫がいる

お嬢

西鶴の口角の泡 住吉大社の広縁

心太

吹寄せ 四十九

庭

マンション一階の屋上にて・

眼下の御所はぼくの庭

ユズヒコ

箱庭で遊ぶ少年 昏れやすし

昭雄

秘密の庭 花はそんなになくていい

TARA

嫁ぎ来た庭の柘榴の割れていたことも みち

下駄履きで鯉に餌を 角栄絶頂 可不可

茗荷摘む裏庭 父の蘊蓄 夜

庭は御座いません モス・ガーデニング 皐

我が庭と台風 室戸に上陸す 心太



吹寄せ 五十

花火



花火セツトを買って少年になる

氷心

花火 口笛吹いてたかくたかくゆく

久光良一

恋人になる父と母 今夜は花火

ニホポ

遠花火 貨物過ぎ行く単線路

夜

遠花火 確かなものをてのひらに

昭雄

カンマですかピリオードですか夜空の花火

ドット

雨に散るさねさす相模の花火かな

心太



あ
と
が
き



お読みいただきありがとうございます。

吹寄せ第2期はスタートしており、皆様の投稿をここでお待ちしております。

<http://fukiyose.etowns.org/fukiyose.cgi>

電子本に収録できなかった総ての句、総ての批評も見ることができます。

なお電子本出版にあたって、本の編集、挿絵はオジャラさんの労によります。多謝。

2003.09.08

笹心太

笹さんの掲示板で、俳句の楽しさを教えていただいた、ほんのお礼です。

電子俳句集という形で、グループの活動や集まった俳句をまとめると、活動も、ぐっと楽しくなりますね。

俳句ファンの方の、句集作りのご参考になればいいなと思います。

おじゃら　りか

*
*
*
*
*
*
*

補

記

*
*
*
*
*
*
*



添削事例



第1期の吹寄せで笹がコメントしたものから、みなさんにお役にたちそうなことを簡単にまとめてみたい。

1 いらないな

吹寄せでは、自由律俳句ということを書きこみしている。

17音(五七五)に拘らず、作者が過不足なく表現できれば、何音でもよいとしている。少なからず冗長な句を見かける。こんな語はいらないとコメントしたものを集めてみる。

素人 砂に書いて消す紙に書いて破るラブレター

砂に書いて消す紙に書いて破る

上の行動でラブレターだとわかるだろう。

凜太郎 難問に答え書けずに 紙飛行機へ

答え書けず紙飛行機

答えを書けなかったが難問だろう

お嬢 背伸びしたドレスと。パンプス そしてキス

ドレスと。パンプス そしてキス

「背伸びした」がドレスと。パンプス、キスにまでかかっている。

それを取ってしまったても、背伸びも初々しさもでてくるだろう。

蛭 登山靴に活けるわたしの秋の七草

登山靴に活ける秋の七草

「わたしの」がいらないだろう。

暁兵 ジーパンの女 たつきに白子干す

ジーパンの女 白子干す

しらす干しね。あれはもう生計。で たつきはいらない。

螢 いずれが正統派 ズボンの折り目

いずれが正統 ズボンの折り目

「派」はいらないだろうね。

オジャラ 昔のヒップに押し込んでる 意地になる

昔のヒップに押し込んでる

押し込んでるで意地になってるのはよくわかる。

映 ラクダのシャツ父と二人三脚の冬

ラクダのシャツ 父と二人三脚

ラクダのシャツで冬だろうから冬はいらない。

南十字星 アダージョにブラウスふわり 陽だまりゆらり

ブラウスふわり 陽だまりゆらり

ふわりゆらりで、アダージョの感じは充分でてるね。

氷心 シャツが乾かない12時にいつものところで

シャツが乾かない12時に

なにもいわなきゃいつものところで会うのだろ

夕 故国とはコンビニの握り飯 110円に消費税也

故国とはコンビニの握り飯

110円に消費税也 いらない、値段もまちまちだろうしね。

夜 スー・パーに鍋セット並び雪となる夜

スー・パーに鍋セット並び雪となる

夜がなくても、夕方から夜の気配が出てくるだろう。

咲 蜻蛉と視線が合う 停車場

蜻蛉の視線 停車場

視線で切れば視線を感じたことになるだろう。

お嬢 ホームレス公園暮らしも口笛吹いて

公園暮らしも口笛吹いて

公園暮らしがホームレスの意味になっているだろう

螢 紙縫り 縄 綱 心だんだんしたたかに

紙縫り 縄 綱 したたかに

形状の変化でだんだんはわかるし、したたかはもとから心のありよう。

可不可 好みは串もの 焼き鳥、焼き鮎、焼き団子

串ものは 焼き鳥、焼き鮎、焼き団子

好みは串ものが重たくしている。

ドット スコアボードに串刺しのようなホームラン

スコアボードに串刺 ホームラン

串刺しが比喩として分かりがいいから」のような「はいらない。

凜 恋も串カツも熱いうちが花

恋も串カツも熱いうち

「が花は」はまさしく、いわぬが花、秘すれば花

ニポポ 気分はスターマイン 私 はしける

スターマイン 私 はしける

「私 はしける」で気分は充分にでてるね。

兎角 冷蔵庫経由「あ」から始まるラブレター

冷蔵庫 「あ」から始まるラブレター

経由、入れた人と受け取る人を考えてだろうが、ラブレターでそれは分かる。

響 中学入学おめでとう 父の字と SEIKO

おめでとう 父の字と SEIKO

父から時計を贈られるつて、中学か高校。おめでとうで始まったほうか ほがらかな気分。

オジヤラ ガムランのおとのうねりのなか、美少女ひらり

ガムランのうねり 美少女ひらり

ガムランというのが音楽の演奏だということがわかっているからね。

オジヤラ バリ島にて：ゆがんだ鏡の中、絵を描いている私がゐる

ゆがんだ鏡 絵を描いている私がゐる

「の中」がなくても鏡に写っている事がわかる

蛭 絵の具皿に溶く一期一会の色

絵の具皿に溶く一期一会

絵の具皿で溶くものは色とつのははつきりしている。

まだたくさんありそうだがひとまず。

2 整理する。

1は単純にいらぬ言葉を削っただけだがちよつと整理すると。

螢 ブラウス干す 沈丁花の香をたきこめて

ブラウス干す 沈丁花の庭

沈丁花で香りはわかるし、たきこめてが作為的になりすぎる。

氷心 焼いもを食ひつゝ故き新聞紙

焼き芋や二年前の新聞紙

焼いもを包んでいた古新聞。食へるときに外したんだろうから喰いつはいるまい。その間に古新聞の古さが推定できるものを入れたほうがいい。

咲 夏の空紙飛行機が飛んでいく

夏の空私を乗せて紙飛行機

「夏の空紙飛行機が」で飛んでいることがわかる、ではそれに何を託すかということになる。

螢 薄暮の公園 ブラコンの揺れ残る

ふらこの音 暮れ残る

薄暮の視覚だけよりは、音を組み合わせたほうがいい。

暁兵 眠る遊園地に冬の月

冬の月 遊園地眠る

夏の遊園地は、まだにぎわっているなんてことも感じさせられるだろう。

素人 皿と椀に見る文明の本質 西東

洋の東西 皿に語らせ

皿は雄弁だろう。

兎角 病院の冬 寡黙な鯉の池

病院の冬 鯉の冬

病室は暖房が効いてぬくぬくと、冬を感じているのは池の鯉。

お嬢 梅雨明けを待つ 思春期の布団の男臭さ

梅雨明けよ 男臭さ増す子の布団

詠み手と対象がはつきりする。

素人 庭いじり今日は第三惑星の草むしり

今日は第三惑星の草むしり

庭いじりと草むしりがだぶつている。単に庭いじりを取って「今日は」では弱い。「今日は」と強調する。

もつ 静寂のものの言わぬ絵の物語り

絵物語り 耳をすます

絵だけで綴られた物語、「耳をすます」で強調されるだろう。

響 一人ずつの団欒を売ってくれる 詮索もせず

小分けします団欒

コンビニという兼題で上は説明過多。

響 常夜灯 眠らない街を作る

コンビニ 眠らない街を作る

文字どおり夜どおし点いている常夜灯を持ってきたても広がりがない。

夕 濁った銀の匙 老婆の繰言

鈍色(にびいろ)の匙 老婆の繰言

形容詞が2つ以上重なったら、1つで済む形容詞をさがしてみよう。

兎角 坂道予報あなたはうさぎになりました

坂道予報あなたはうさぎになりなさい

原句は予報と完了で時制が混乱している。時制を合わせた。

素人 熱の子に優しき母の水枕

熱出せば優しき母の水枕

原句は第3者ので主体がはつきりしない。

3 切れ

もう少し切れを意識すればメリハリの出る句も多い。

千靴下が待つ足音のクリスマス

靴下が待つ足音 クリスマス

のだと意味が不明瞭。

凜 徹夜明け夫に傘差す停留所

明けの夫に傘差す停留所

原句では上5で切れて徹夜明けの作者が傘を差していることになってしまう。

素人 年取ったね君も僕も僕も停留所

年取ったね君も僕も 停留所

上でもわからないことはないが、下の空白の一呼吸が久しぶりの出合いを強調してくれるだろう。

螢 安曇野ジャンセン美術館 踊り子の素描の吐息芽吹き初む

踊り子の素描 芽吹き

省略と切れを入れると、すっきり広がる。

氷心 青柳の美術館には入らずに

青柳や美術館には入らずに

「の」だと美術館の異称や所在地を示すともとれる。下だと春の気持ちいい日柳が青々とした日ということになる。

氷心 轉りの携帯電話を待っている

轉りや携帯電話を待っている

上だと着信音が鳥の轉り。「や」だと自分もさえずる相手がほしくなったことになる。

陸爺 スーパーと言うのはコンビニの事 束草村

スーパーと言うのはコンビニの事 束草村

切れ(空白)2ヶ以上入れると焦点が定まらない。

明日香 空高く 旅で求めしシャツを着る

空高く旅で求めしシャツを着る

空白はいらないね定型で空高くで切れている。

のぶえ コップに光る水一杯やいざ出発

コップに光る水一杯いざ出発

「いざ」で切れるから「や」がいらない

4 詞書(前書き)

場所、日時、行動の基点等を表すために詞書を認めているがあくまでも最小限にとどめること。

オジヤラ 移転:遠くなつた役場に、バスで行かされてゐる

遠くなつた役場に、バスで行かされてゐる

移転というそのことを詠んでいるから前書きはいらない。

オジヤラ バリ島にあるベモと呼ばれるバス手を上げれば、そこがバス停

バリ島にて:手を上げれば、そこがバス停

場所の限定で留める。どんなバスかわからなくても風景は伝わる

オジヤラ いざ南国へ靴 全部捨てて発つ

バリ島へ靴 全部捨て

前書きが強すぎる。前書きに感情等はいれない。

南十字星 リヤマ追う子らのスカート陽に映え アンデス晩秋

アンデス晩秋リヤマ追う子らのスカート陽に映え

アンデス晩秋とつてしまえばよかったね。つけるとしたら詞書か

TARA いいお箸「あごおとし」という明太子

「あごおとし」という明太子：あごおとしにはいいお箸

特別な物品の名前なら前書きで書いたほうがすっきりする。

三島 煎餅布団の上だけが私の居場所である

釜が崎にて：煎餅布団の上だけが私の居場所である

どこで詠まれたかが判つて理解される句であろう。

5 奥行き(意外性)

過不足なく詠まれているのだが、「そうですね」で終わってしまう句がある。

一歩踏み込んでみよう。

響 欲望が歩くルーズソックス

元カレ・今カレ・新カレ ルーズソックス

欲望を具体的にあげてみる。歩くだけでなく、しゃがみ、走るすがたも見えてくる。

お嬢 故意に汚したジーンズ 軽い青春

故意に汚した青春 軽いジーンズ

組み合わせを変えてみる。案外こちらが実像かもしれない。

のぶえ 将棋の縁台出して花火を見し昔

王手飛車 思案の上の花火かな

単に回想としないで、その時、その場所の登場人物になるう。

晶 あんたがたどこさ スカートで受けるゴム毬

あんたがたどこさ スカートで受けるロクデナシ

童女の句から大人の句に変わる。

これらのヒントが第2期に役立つとうれしいですね。

--*-*-*

自由律俳句とは

--*-*-*

*** その一 ***

自由律俳句とは 2003. 05. 23 笹心太

いまさら定義するまでもないが、
五七五、十七音や季語に拘らない俳句をいう。
定義はそれだけである。

そういった作品は、江戸時代から散在し、芭蕉にもあるし、
惟然などにもある。

明治になって、子規の俳句改革を発展させるような形で碧
梧桐による新傾向俳句、そして井泉水による自由律俳句が
提唱され現在までいたっている。上で発展と書いたが、そ
れを俳句の破壊と捉えた人もいた。虚子に代表される定型
遵守派で、その後継が現在の俳句界の大勢をしめている。

明治・大正時代に自由律が盛んになった背景には

一、鎖国から解かれた日本に押し寄せた、外来語、外来の
物資、等をあらわすのに、五七五という枠組みでは窮屈
になったこと

二、海外へ出る人も多く、日本と違う季節を体験したり、
都市生活者の増大で従来の中行事に接しないひとが増
えたり、それに新暦の採用で季節をあらわすのに混乱を
生じた。

三、季語の本意（コモンセンス）というのは万葉・古今か
ら連歌に受け継がれものや江戸期の町民文化からのもの
だが、そのコモンセンスもゆらいだ

上の3点については現代の方がより深刻ともいえるが。

*** その二 ***

五七五、17音や季語に拘らない俳句をいう。
これからどんな効能があるとされているか、考えられるか

- 一、より柔軟な言葉の選択
- 口語、方言、女子高校生言葉、他国語交じり……
- 二、より柔軟な対象の選択
- 三、より制約なき感情の吐露
- 四、新たなリズムによる詩心の開放

これらのことについて井泉水はいろいろなことを言った。
彼は自由律の伝道者だからTPO、人に合わせて説きまくった。

それが少なからず現代にまで混乱を生じさせているが、上の4点、いわば薬の効能書。それが役にたつ人もいれば、かえって害になる人もいる。

自由律俳句がいかなるアドバンテージをかけたとしても、作品によって評価される。
句を作っているときのセラピー効果（特に上の3）を否定するものではないがそれは人間の行動に付随するものと考えるべきだろう。

それと定型との違いのためにアドバンテージばかり目がい
くが定型で培われたベースの技法等は十分理解、活用さ
れるべきである。

上の4点のアドバンテージは定型の俳句作家によって、次々と作品化され克服されている。
かえって自由律俳句の幼児性、独善性が目立つこのごろである。

*** その三 ***

「青文字は引用文」

子規の俳句改革を發展させるような形で碧梧桐による新傾向俳句、そして井泉水による自由律俳句が提唱され現在までいたっている。

發展はアンチテーゼではあるまい。

なぜ自由律と冠していなければならないかという意味では、

上で發展と書いたが、それを俳句の破壊と捉えた人もいた。虚子に代表される定型遵守派で、その後継が現在の俳句界の大勢をしめている。

という現状で便宜上言ってるだけ（技法的なものが分かりやすいという意味もある。17音、季語に拘らない）。俳句としての存在価値はその作品によって保障される、他にない。

そのあたりは何度か話題にしている。

大志無き人生もよし風花す
やっと夕焼け やっと私

師を殺し仏殺して瓜喰らう
食物連鎖お前を喰らうのは俺だ

掌にほどよき春の乳房かな
誘いだす迷路に唇這わせて

時雨るるや不惑を過ぎてもお惑い
雨の匂い もうすぐ

前の定型、後の自由律 どちらも笹のもの。
気分としておなじようなものを並べてみた。
自由律だって定型だって同じ。
単に技法の問題。

--*-*-*

俳句と川柳

--*-*-*

*** その一 ***

「俳句と川柳」 復本一郎 講談社現代新書
復本一郎の名前は覚えがあった。

カバ―の裏の著書リストに「江戸俳句夜話」があった。
読んだ記憶がある。

記憶にあるのは書名だけで、内容は覚えていない。

さて「俳句と川柳」、その源を連歌に辿るのは定法で、俳句は発句から川柳は平句からでているとは、誰もが認めているところ。

復本一郎も、まず連歌の話から初めている。
実は笹が連歌、連句を調べ始めたのは、川柳の発生を考察するためだった。

ではそのまま平句からすんなり川柳に行ったかというところ、少し曲折がある。その曲折が川柳を生み出したともいえる。それはなにか連歌の先祖返り。短連（2句だけの連歌）の前句づけが江戸中期流行した。

おしわけにけり おしわけにけり

こんな囃子言葉のような下句に上句を付けていく。
上の例として

雛まつり旦那どこぞへ行きなさい

ここの復本の説明、下句を前句というのは明らかな間違い。
前句付けといのは前に付けるという意味。

ただこのような下句なら上句だけでも十分鑑賞しうる。
発句の独立を追うように川柳も独立し575 17音の文
芸になった。

ここまでは「俳句と川柳」の概略というより、笹が理解す
る川柳史。

その後、川柳も沈滞し月並み川柳といわれる時代がくる。
明治になって子規の俳句改革を追うように久良岐と剣花坊
による川柳改革があったという。剣花坊は知っていたが久
良岐は知らなかった。

ただその改革と「新子」との距離はこの書ではわからなか
った。

彼の主張はというと

1 俳句と川柳の共通点

17音であること

笑いの質は違うが両者とも「笑い」の文芸であること

2 俳句と川柳の違い

切れがあるのが俳句、切れのないのが川柳

うーん 連歌の説明から初めたときからもうこの結論は、
導き出されていたのに、

まあ川柳史の本と読めばいいのか。

復本の主張を連歌から説明すると

復本が引用した芭蕉の連歌（歌仙）は俳諧の連歌と言われるべきもので俳諧とはそもそも滑稽、笑いということだから、その発句からの俳句も平句からの川柳も「笑い」を根底においている。

違いの切れだが発句は切れを必要とし、平句は切れがあつてはならない。

これについては

<http://sasa.org/japan/renku/renku5.html>

切れと平句を参照されたし。

*** その二 ***

そうそう 俳句と川柳の共通点として17音というのは、自由律に親しむわれわれには不満である。

自由律は俳諧発句からの変形とも考えられるがむしろ平句の付け合いの二句を圧縮したようなものだ、笹は何年前書いた。

連句から自由律に入る人にはそのほうがわかりやすい。

さて川柳と俳句の捉え方の違いの例として、

夕焼け小焼けばくもひとつの空を追う 昭雄
やっとな焼く やつと私 心太

五月に生まれ五月つくづくあつけらん 昭雄
切なさが君に似る 五月 心太

コンビニへはじめとおわり買いにゆく 昭雄
フリーマーケット「」と「」が売られている 心太

父も少年かぞえあぐねる冬銀河 昭雄
寒雷や父の望みは知らざりき 心太

いちにちをあわただしく母 こぶし咲く 昭雄
むず痒し母の十八番のとりろ汁 心太

木馬館の昭雄さんの川柳と笹の俳句はどちらがどちらに合
わせてつくったといのではなくて、お互いのページに発表
している作品で題材が似通っているものを笹が試みに並べ
たもの。
ある程度 俳句と川柳の共通点、相違点がわかってもらえ
ると思う。

昭雄さんのページ

<http://www.jomon.ne.jp/~ayumi/>

--*-*-*

時雨の系譜

--*-*-*

*** その一 ***

時雨の系譜 2003/5/18 笹心太

吹寄せ三十七 『雨』 に投句した

時雨るるや不惑をすぎてなお惑い 心太

山頭火が「時雨るる」を使うので、自由律俳句をはじめ
た人は、多用しがち。

というコメントを頂いた。それにこう応えた。

時雨の系譜というのは自嘲の系譜 宗祇 芭蕉 ……
山頭火。そして 笹まで流れてる。

宗祇の前にも万葉、古今にも時雨は歌われているが

世にふるもさらに時雨の宿りかな 宗祇

この句の意味は年をとっても旅から旅への私に無情の雨だ
という意味だが宗祇は連歌の指導で京一越後を再三往復。箱
根の湯本で没したのは81才だった。

宗祇終焉の記を弟子の宗長が書いている。連歌一途の最後で
あった。

<http://sasa.etowns.org/library/>

宿れとは御身いかなるひと時雨 宗因

この句 いかなる人と一時雨をかけているが、宿れと声をか
けたのは宗祇という趣向であろう。

宿借りて名を名乗らす時雨かな 芭蕉

なんと時雨の宿、宗祇に声かけられ宗因が、そのあと新参者でございますがと芭蕉が入ってきたようではないか
芭蕉には時雨の句が多い。おそらく全俳人の中で一番多いだろう。

だが時雨を詠まぬ時雨の句が、芭蕉の転機を示す重要な句として知られている。それについてはまたあとで

しぐるるや我も古人の夜に似たる 蕪村

蕪村も仲間入り。時雨をききながら古人の詩心に浸っている。

通天やしぐれやどりの俳諧師 川端茅舎

通天とは通天閣のことでもあろうが、天に通ず 私もやつとしぐれのやどりで、敬愛する俳諧師の仲間になれた。気持ちが天に通じたのかと茅舎はしゃいでいる。

こうみてくるとわかるだろうが、これらの時雨の句は、俳人が俳人として自覚し宗祇、芭蕉の流れに連なろうとしたものだろう。時雨倶楽部である。

時雨るるや不惑をすぎてなお惑い 心太

心太、時雨倶楽部の門をたたきながら、足がすくんだようだ。

*** その二 ***

さて芭蕉の重要な句と山頭火のしぐれについては、よく知られている。芭蕉の時雨のない時雨の句

手づからわび笠をはりて

世にふるもさらに宗祇の宿りかな 芭蕉

宗祇の宿りで下の句を包含した形になっている。

世にふるもさらに時雨の宿りかな 宗祇

季語のない無季の句。思い切ったことをするものだ。
この形に落ち着く前に

手づから侘笠をはりて

世にふるもさらに宗祇のしぐれかな 芭蕉

これだと宗祇が時雨に遇した。あるいは宗祇が遇したような時雨に芭蕉が遇したとでもいうことになる。では上の句、もう一度読み直してみると宗祇に遭遇して宿ったと読める。

そうこの句、芭蕉の談林風からの離脱、宗祇回歸へ意思を示したものといわれる。

芭蕉は貞門の季吟を師とし出発したが、宗因の江戸下向にあわせて、江戸談林に参加した。

世にふるもさらに時雨の宿りかな 宗祇
宿れとは御身いかなるひと時雨 宗因
宿借りて名を名乗らす時雨かな 芭蕉

その談林のしがらみをふりはらって

世にふるもさらに時雨の宿りかな 宗祇
世にふるもさらに宗祇の宿りかな 芭蕉

「手づからわび笠をはりてと」芭蕉の自嘲であり決意であった。

このとき芭蕉数えの四十歳、不惑である。

こう流れを書くときすっきりするのだが、実は宿借りての句のほうが新しくて芭蕉の四十八、九歳の句。長い前書きで宿の亭主の求めに応じてとある。

この頃、もし宗因がいなければ、貞徳の誕をねぶっていたような句が横行していたと談林を再評価しているから、この句、談林に接した時の思いが反映しているのだろう。

もう一句、いや二句 芭蕉の自嘲といわれる句がある。

*** その三 ***

時雨と冬の句の話ばかりしていたから夏の句を。

馬ぼくぼく我をゑに見る夏野哉 芭蕉

天和三年江戸の大火事で焼け出された。

芭蕉は甲斐の門弟の所に身を寄せる。

この句にいたるまで三句ほど変形があるがそのうち

甲斐の郡内という所に到る途中の苦吟

夏馬ぼくぼく我を絵に見るころ哉

苦吟と言っても洒脱、最終句は実際に絵を書いてくれた人もいて自嘲を客観化した。これについて芭蕉自身？の寸評めいたものを下記に書いた。何故「？」はご笑覧あれ。

<http://chiba.cool.ne.jp/teganuma/gin/200206/sasa206.html>

さて芭蕉の時雨をもう一句

神無月の初め、空定めなきけしき、身は風葉の行末なき心地して

旅人と我名よばれん初しぐれ 芭蕉

笈の小文巻頭を飾る句である。

馬ぼくぼく我をゑに見る夏野哉

旅人と我名よばれん初しぐれ

この2句をしっかりと睨んでおいてほしい。山頭火の時雨れにつながる。

*** その四 ***

まずこの句

しぐるるや死なないでゐる 山頭火

世にふるもさらに時雨の宿りかな 宗祇

の現代版、自由律版とでも言おうか『時雨倶楽部』入会の句。

自嘲

うしろすがたのしぐれてゆくか 山頭火

このうしろすがたは誰か、自嘲であるから山頭火自身。
だが誰も旅人と呼んでくれぬ寂しさがにじむ。
この句、芭蕉風にすると

後姿の我を絵に見る時雨かな

しぐれてゆくかという使い方はめづらしいが、時雨の中に消えていくということだろう。

空定めなきけしき、身は風葉の行末なき心地してを戯画したともいえる。

山頭火について自由律のやさしい言葉のせい「情」の人と見られがちだがむしろ理の人。芭蕉の句について緻密な解釈をしている。

萩原井泉水の主張。

自由律俳句は芭蕉の俳句の「道」をおしすすめたものである
(芭蕉・蕪村・子規)

彼の弟子である山頭火が実践した。同時に井泉水を超え
芭蕉に直結したともいえる。時雨の系譜において。

時雨の系譜 了

おじやら・ねつとの本



『吹寄せNO.1』

2002・2003 入選俳句集

(PDF版 無料 CD版 千五百円)

二〇〇三年 九月 三十日 発行

監修

笹 心太

編集、イラスト

おじやらりか

発行者

心太俳諧通信

笹 心太

E-Mail: tokoroten@sasa.org

<http://sasa.org>

発行所

有限会社 おじやら

〒111-0002 四

東京都足立区千住四・七・六

E-Mail: rica@ojara.net

<http://www.ojara.net>

ISBN4-901941-13-5 C0892-¥1500E



心太俳諧通信

お気づきの個所がございましたら、ご面倒様でも、
E-mailにてお知らせください。

よろしくお願い致します。

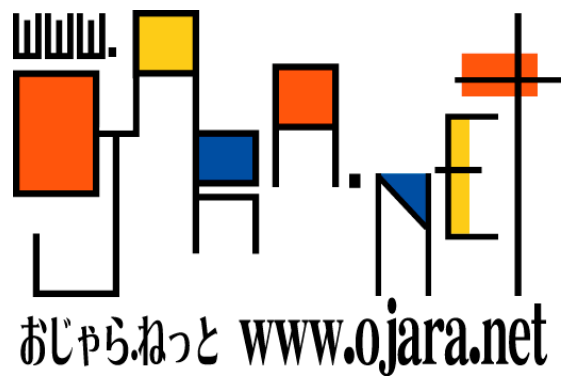


この本は、PDFファイルで作成されており、本を読むのには、
Adobe社のアクロバットリーダー 4.0TM以上が必要です。

電子本 自前出版してみませんか？
パソコン(ワードとアクロバット)で作るカンタン・激安“e-Book”
図書コードもつけて、本はあっという間に完成です。 編著 おじや りか
CD-ROM版 1200 円， ISBN 4-901941-10-0 C3800 ￥1200E
PDF版 700 円， ISBN 4-901941-09-7 C3800 ￥700E



おじやら・ねつとのお本



ISBN4-901941-13-5 C0892 ¥1500E